



東海道の難所

～箱根～

江戸日本橋より 11 番目の宿場である箱根。箱根には関所がおかれ、また八里（31.4 キロ）の箱根越えは天下の難所と言われました。このように江戸時代においては、旅人が箱根を通るのには大変困難を極めました。双六においてもこの箱根越えの事情が反映されています。

6.「東海道五十三驛道中記細見雙六」(右)では、箱根のコマに「手がたをわすれ小田原まで」とゲームの進行指示が記されています。「手がた」とは往來手形のことで、これがないと関所を通ることができませんでした。



また、箱根越えに備え、箱根の一つ手前の小田原で止まるようになっている双六もあり、小田原のコマに「泊」の表示が出ています。



5. 「江戸名物吾妻錦画東海道細見雙六」



3. 「東海道五十三驛名所古跡畧記道中雙六」